

インターバンクの声（2017年11月30日）

週明けのニューヨーク市場で2ヵ月ぶりに110円台までドル売りが進んだ円相場は、米長期金利の上昇や7-9月期の米GDP改定値が市場予想を大きく上回ったため、昨日のニューヨーク市場序盤に112円台へ戻して来た。また、イエレンFRB議長の議会証言前にリリースされた発言原稿に米経済の堅調さが明記されていたこともドル買い支援になったようだ。もっともその後の上下両院の経済合同委員会での実際の議会証言では、議長は金利の緩やかな引き上げが適切だと発言、次回の利上げ時期などへの明言もなかったことから、発言原稿が出た後の反応とは打って変わってドル売りになる場面もあった。今晚の米議会上院で行われる税制改革法案が可決となればドル買いがさらに進むことも考えられるが、11月末日の木曜日ということもあり、ロンドン4時のフィクシングでドル売りが持ち込まれる可能性もあるので注意が必要だ。東京時間は株価動向や米金利の動きを気にしながらの取引になりそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。